

C-54 日本人青年女子の肌色の季節の变化について (才4報) 岡山地区における  
東京家政大家政 ○木曾山かぬ 岡山県立短大 古元千鶴子  
東京家政大家政 雲田直子

目的 本研究は衣服の色との調和を考ふるための、客観的、系統的な資料を得る目的を以て研究続行中の、日本人青年女子の皮膚色調に関する研究と一連のものである。既にその地域差を見る目的で、才1報には東京地区、才2報には名古屋地区、才3報には北海道札幌地区について測定実験を実施し、考察検討を行い報告したが、今回はこれにフダキ、岡山地区について実施した。

方法 測定の方法は視感測定法によった。測定日は春は昭和46年4月下旬、室温20°C内外、湿度64%内外、夏として昭和46年6月中旬室温26°C内外、湿度65%、秋として昭和45年11月上旬室温20°C内外、湿度65%内外で、冬は昭和46年2月上旬室温12°C湿度65%内外で、皮膚面の照度450LUXより500LUXの間で測定を行った。

被験者の年齢は、19才、20才で、人員は始め100人を対照と考えたが、年間測定を続行する人員が得られず43人となった。被験者の家庭状況は農村地帯居住者が約3分の2を示し、農事を手伝う学生も約5分の1含まれる。尚才1報、才2報、才3報は都市居住者が大半であった。

結果 総括しての傾向は明度の高い色調が多かったこと、オレンジ系統の明度の高い色調の出現率の高かったことは今迄にみられなかったことである。測定部位による傾向をみると、顔と腕の外が、5.0YRが高く、胸と腕の内側は7.5YRの明度の高い色調が非常に高率であった。東京地区、名古屋地区、札幌地区より、血色が良く、明度の高い者が多いという傾向がみられた。